

<令和7年11月25日（火） 教育長定例会見>

○ 西日本新聞

SAGA BUKATSU PROJECT のⅡのモデルパターンは、つくって示したのか、それとも現場であったものをパターン化したのか、どちらでしょうか。

○ 教育長

国の部活動改革は、地域移行・地域展開のメッセージが強かった。佐賀県では地域移行ありきではなく、地域の実情に応じた子どもたちの活動支えていく形があるのではないかと考えました。そのため、教育委員会がⅡのパターンを考えました。それを参考に、市町が実情に合わせて発展形をつくっていただきたい。

○ 西日本新聞

部活の顧問の先生の手当てはどのように工夫されていますか。また、モデルパターンに、民間が関わっている場合、手当は発生するのですか。

○ 教育長

学校の部活動は、勤務時間も含んだ活動になります。外部の方へは、国の補助事業を使いながらやっています。

○ 西日本新聞

2028年度から、学力試験が2月に前倒しされる発表がありました。この意図をお尋ねします。

○ 教育長

入試改革の変更点は、大きく2つ。学力検査の内容と時期。

特別選抜においては、今までの「学力検査と実技」から「学力検査と自己表現」に変更。「自己表現」には、作文や口頭試問、面接、プレゼンなどが考えられますが、その方法は各学校で考えていきます。「自己表現」を取り入れ、多様に評価していきたいということです。

現在、2月上旬に特別選抜を受ける生徒は、全体の定員の約2割。多くの生徒が3月上旬に一般選抜を受けています。早く進路を決めたいという声を取り入れ、一般選抜を2月上旬に変更し、多くの生徒がその時期に試験を受けられるようにと考えました。

○ 読売新聞

専門学校・総合学科高校から4年制大学への進学が、数年前に比べて増加し、近年は10%以上とのこと。数字に関する資料がありますか。

○ 学校教育課長

全国の資料では、平成元年3月、全国の専門高校を卒業した生徒のうち、4年生大学

希望者が8.6%。令和5年3月では、25.2%と、全国的に増加しています。

○ 読売新聞

増えてきた要因は、県教委の取組が浸透してきたのか、学びを希望する生徒が増えてきたのか、どちらでしょう？

○ 教育長

県教委から進学を増やすような取組はしていません。学びを充実させる中で、生徒が自ら進路を考えています。学校ではキャリアを考える機会を充実して設けています。

○ 佐賀新聞

防犯カメラの設置について、教育長のお考えはいかがでしょうか。

○ 教育長

防犯カメラには難しい面があると思います。防犯カメラがあれば、何か起きたときに確認できますし、あることで抑止力を期待することもできます。今の時点では、県教育委員会として考えていません。